

第 65 回日本生殖医学会学術講演会が 12/3～12/23 に Web 形式で行われました。2 年前は北海道胆振東部地震の影響で急遽 Web 開催されましたが、今回は前もって準備されていたので LIVE 開催もありログインの際のパスワードなどセキュリティー万全で開催されました。数ある演題の中で特に興味深かったのが『新型コロナ感染症と生殖医療』についての発表です。妊婦は免疫力が下がると耳にされたことがある方もいらっしゃるのではないかと思います。まったくそんな事実は存在せず、妊婦だから新型コロナにかかりやすくなるという事は無いそうです。病原体に対して人間が持っている最善の防衛手段は長期の隔離ではなく情報であり、信頼のおける科学的情報の共有と、グローバルな団結によって早急に真の安全確保が達成されることを切に願っています。

当院からは以下の 1 演題(口演)を発表させていただきました。

『ICSI 由来 1PN 胚の臨床成績および移植予後』

受精確認時に観察される前核(PN)の個数が 2 個(卵子由来+精子由来)の胚は正常受精ですが、やむを得ない場合は 1 個のみしか前核が観察されない胚(1PN)を移植してきました。今回、後方視的に臨床成績および移植予後を比較検討した結果、1PN 胚は正常受精胚に比べ、胚盤胞への発育率は低下するものの、妊娠率・流産率には有意な差が出ませんでした。今後もこれまでと同様にして慎重に移植に供します。

培養士 貴志